

【小項目評価基準】
 評価5・・・年度計画を大幅に上回って実施している。 評価2・・・年度計画を十分に実施できていない。
 評価4・・・年度計画を上回って実施している。 評価1・・・年度計画を大幅に下回っている。
 評価3・・・年度計画を順調に実施している。

参考資料5

令和2年度業務実績報告書における各小項目の自己評価結果一覧

大項目	小項目	ウエイト	自己評価結果		2年度業務実績報告書における自己評価の内容（※評価3については記載省略）	
			2年度	(参考)元年度		
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
1 医療サービス	(1) 良質な医療の実践	こども病院	2	4	3	コロナの影響による受診控えや新しい生活様式の定着に伴う小児の感染症ならびに感染症に由来する疾患が減少したことなどから、入院・外来患者数、手術件数及び救急搬送件数等の主な目標値は達成できなかったが、コロナ病床の確保や環境の整備、疑似症患者を含む入院患者の受入れなど、公的病院として求められる小児のコロナに対する医療提供を行ったことや、入院支援推進チームによる入院支援の対象診療科を拡大したこと等を総合的に判断し、自己評価は「4」とする。
		市民病院	2	4	3	目標値に対しては、コロナ対応のための1か月程度の手術制限(4月～5月において、過去3年間の同期比で5割以上の件数減)、患者の受診控えや救急搬送件数の減少(福岡市において前年比11.9%の減)、コロナ専用病室として57床を確保したため、204床のうち年平均11.4%(23床)を空床とせざるを得なかったことなど、特殊な状況下であったことから、診療単価以外は全て下回る結果となった。一方、その他の一般病棟は年平均94.1%の病床利用率を維持するとともに、高度専門医療の提供に積極的に取り組み、新たな手術手技の導入等によって、診療報酬におけるコロナ特例措置の加算分を除いた入院単価は70,498円となり、目標値を大きく上回るなど、コロナの影響を受けながらも、通常医療を途切れさせないよう取り組んだ。また、コロナ対応では福岡市、福岡県における中核的な重点医療機関として、中等症以上の重症患者を中心に積極的な受入れを行ってきたことから、自己評価は「4」とする。
	(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進	こども病院	2	3	4	
		市民病院	2	3	4	
	(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応(※1)	こども病院	2	4	4	BCP(事業継続計画)を踏まえながら、COVID-19対策本部や感染対策室を中心に、疑似症を含む患者受入体制を整備し、患者を受け入れるなど、市立病院として迅速・的確な対応を行った。また、マスクや消毒液等の資材の確保に努めるとともに、様々な感染防止対策を講じるなど、事業継続するために必要な取組を確実に実施した。災害発生に備えた訓練の実施や設備及び備蓄物品の点検等の徹底に加え、迅速・的確なコロナ対応を行ったことから、年度計画を上回って実施したと判断し、自己評価は「4」とする。
		市民病院	2	5	5	発生当初より、福岡市及び福岡県のコロナ対策の中核的な役割を果たすため、一般病棟のコロナ専用病棟化やマンパワーの確保など、いち早く院内の体制を整えとともに、行政や他の感染症医療機関と連携を密にししながら、中等症以上の重症患者を中心に積極的な受入れを行い、全職員が一丸となって、常に最前線での取組を行ったことから、自己評価は「5」とする。
2 患者サービス	(1) 患者サービスの向上	こども病院	2	4	3	退院時アンケート等の意見を踏まえ、院内環境を整備したほか、プレパレーション動画による患者・家族の理解度の向上と説明内容の標準化や、ICT(情報通信技術)を活用した再診予約・予約変更システム導入(実証実験中)による患者家族の利便性向上など、患者サービスの向上に取り組んだことから、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。
		市民病院	2	3	3	
	(2) 情報発信		1	3	3	
3 医療の質の向上	(1) 病院スタッフの確保と教育・研修	こども病院	2	3	4	
		市民病院	2	4	4	コロナ禍でありながらも、実習生の受入れを継続するとともに、オンラインを活用した説明会や面接試験を実施するなど、人材確保に積極的に取り組んだほか、看護師の特定行為研修指定研修機関として、医師をはじめとした各職種との協働体制のもと運営に取り組み、無事に初年度を修了した。また、看護職員の経験やスキルを確認し、必要な現場に必要な人材が配置できるよう、柔軟かつ臨機応変な人員配置を行うとともに、コロナ対応に直接従事する職員と、他の一般診療に従事する職員が相互に協力しながら、師長をはじめとした管理者によるきめ細かな配慮を行うなどの取組により、過酷な状況下でありながら、看護師の離職率を5%台に抑えることができたことから、自己評価は「4」とする。
	(2) 信頼される医療の実践	こども病院	2	4	4	薬剤管理指導件数については、集中治療系病棟へ薬剤師を配置し、リスクの高い分野での活動を重点化したことから目標値を下回ったが、専従職員の増員による感染防止対策の強化やTeam STEPPS研修会の開催、クリニカルパスの数・使用率の増加等による医療安全対策の強化に積極的に取り組むとともに、コロナ感染拡大に伴い、従来の「歯育・保育・食育教室」を「食育チーム」と形態を変えて継続的に実施するなど、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。
		市民病院	2	3	4	
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置						
	1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実		1	3	3	
	2 事務部門の機能強化		1	3	3	
	3 働きがいのある職場環境づくり		1	3	3	
	4 法令遵守と公平性・透明性の確保		1	3	3	
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置						
1 経営基盤の強化	(1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減	こども病院	2	3	4	
		市民病院	2	3	2→3(※2)	
	(2) 投資財源の確保		1	3	3	
2 収支改善	(1) 収益確保	こども病院	2	3	4	
		市民病院	2	3	2→3(※2)	
	(2) 費用削減		2	3	3	
第4 その他業務運営に関する重点事項を達成するためとるべき措置						
	1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	こども病院	2	4	4	臨床研究や治験業務に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展や新薬の開発に貢献するなど、医療機能の充実が図られた。特に川崎病センターの症例数や先天性心疾患に係る手術症例数が5年連続全国1位となったほか、新たにフランス語研修を開始し、職員の外国語能力の更なる向上を図るなど、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。
	2 福岡市民病院における経営改善の推進	市民病院	2	3	3	

※1 「災害時等の迅速かつ的確な対応」は、両病院において新型コロナウイルス感染症への対応などが大きく異なるため、両病院を分けて評価を行った。
 ※2 (参考)令和元年度自己評価結果の記載について:法人の自己評価と異なる評価を市が行った場合、右の要領で記載。(例:2→3 法人自己評価「2」→市の評価「3」)